

総合型地域スポーツクラブ

Sany Tomi マスタープラン

(素 案)

令和3年7月

東御市総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会

マスタープラン目次

1	総合型地域スポーツクラブ設立の背景	3
2	総合型地域スポーツクラブ設立の意義	4
3	基本理念	5
4	Sany Tomiの運営体制	5
5	Sany Tomiの基本目標	7
6	目標達成のための具体的な方策	8
7	年間事業スケジュール	10
8	マスタープランの管理	10

1 総合型地域スポーツクラブ設立の背景

少子・高齢化や情報化の進展、地域コミュニティの弱まりなど、私たちを取り巻く社会環境が急激に変化していく中、とりわけ“子どもたちの体力・運動能力の低下”が大変憂慮される事態としてクローズアップされています。

一昨年、スポーツ庁が公表した「令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」によると、小・中学生の男女ともに体力合計点は前年度を下回り、女子よりも男子の低下が大きく、特に小学生男子は過去最低の数値であったと報告されています。

この要因は、一体どこにあるのでしょうか？

知識を過度に重視する大人の意識が、子どもたちの外遊びやスポーツの軽視につながってきていることも一つでしょうし、情報化の波を受けた情報機器やゲーム機への“のめり込み”が人間関係の希薄化や体を動かす機会の減少を招いてしまったことも一つでしょう。

しかしその極めつけは、新型コロナウイルス感染症の蔓延に他ならないでしょう。コロナの感染拡大は、まさに追い打ちをかけるかのように子どもたちの運動の機会を奪っています。

今や、子どもたちの運動不足は極めて深刻な問題であって、今後さらなる体力の低下が避けられないものになりつつあります。

私たちには、東御市が将来にわたって活力ある「まち」であり続けるために、次代の担い手である子どもたちの健やかやかな成長を支え、豊かな人間性や自ら学び自ら考える力といった「生きる力」を育てていく使命があります。

そのためには、子どもたちが体を動かすことを楽しいと感じたり、体を動かすことの喜びが日々の生活の励みとなるよう動機付けられるようにしていく取り組みが何よりも大切になっています。



2 総合型地域スポーツクラブ設立の意義

総合型地域スポーツクラブとは、市民が“いつでも・どこでも・いつまでも”スポーツに親しむことができる、市民主体のスポーツクラブをいい、スポーツ振興法に基づいて国がその育成と推進に力を入れている取り組みです。

この設立にあたっては、多くの皆さんが、

「趣旨は理解できるが、人口3万人の小さな市に本当に必要なの？」

「すでに身体教育医学研究所やスポーツ協会があるでしょ？」

といったご意見をお持ちであると思います。

確かに東御市には、(特非)東御市スポーツ協会や(公財)身体教育医学研究所、(一社)とうみ湯の丸高原スポーツコミッションといった法人格を有する団体のほか、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、障がい者スポーツ団体等の多様な団体が存在し、市民のスポーツ活動を支えています。

しかし、これまでの活動が、あらゆる子どもたちのニーズに応え、子どもたちの育ちに網羅的に関わってきているといえるのでしょうか？

現状、それぞれの団体では、特定の分野や特定種目に賛同する参加者の単位をもって活動しています。そのため、どうしても行き届かない部分も生じてしまっています。

「スポーツをする子としない子があってもいい」

「遊びの集団ができないのは、少子化だからしょうがない」

ではなく、設立準備委員会に結集した私たちは、俯瞰的な視点から“子どもたちの体力低下”という共通の課題に向き合い、“今、スポーツを楽しんでいる人たちだけでなく、1人でも多くの人にスポーツを楽しんでもらう”仕組みを「総合型地域スポーツクラブ」設立によって見出そうとしています。



3 基本理念

こどもを中心に关わるみんなが元気になる柔らかな
「こども旋風」をまきおこす土台となる

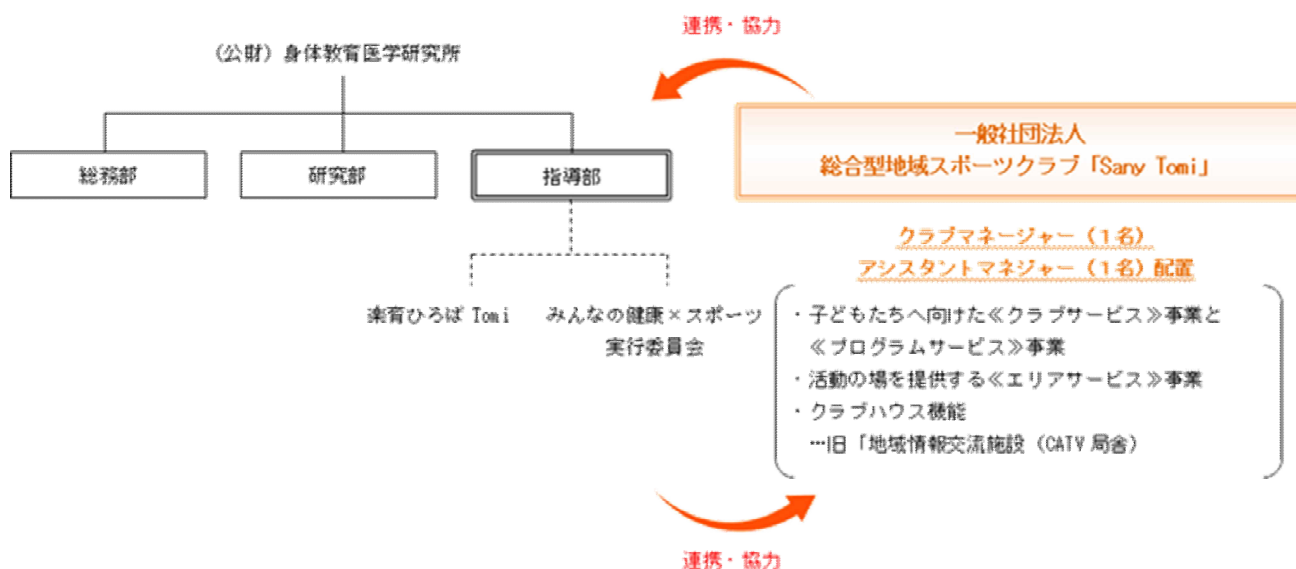
子どもたちが「元気で幸せ」だと、周りの大人も巻き込まれて笑顔になり、元気になる、触発されます。そんな環境を地域みんなで作っていききたい、支えていききたいという想いから、この理念を掲げています。

子どもたちの健全な育ちを応援し、成長を見守っていくことを活動の核とし、年齢、障がいがあるなしに関係なく、地域のみんながいつでも気軽にスポーツすることができるよう、生涯を通じて楽しむことができるクラブを目指します。

4 Sany Tomiの運営体制

総合型地域スポーツクラブ設立の柱は、“子どもたちの育ちを応援する”ことにあります。

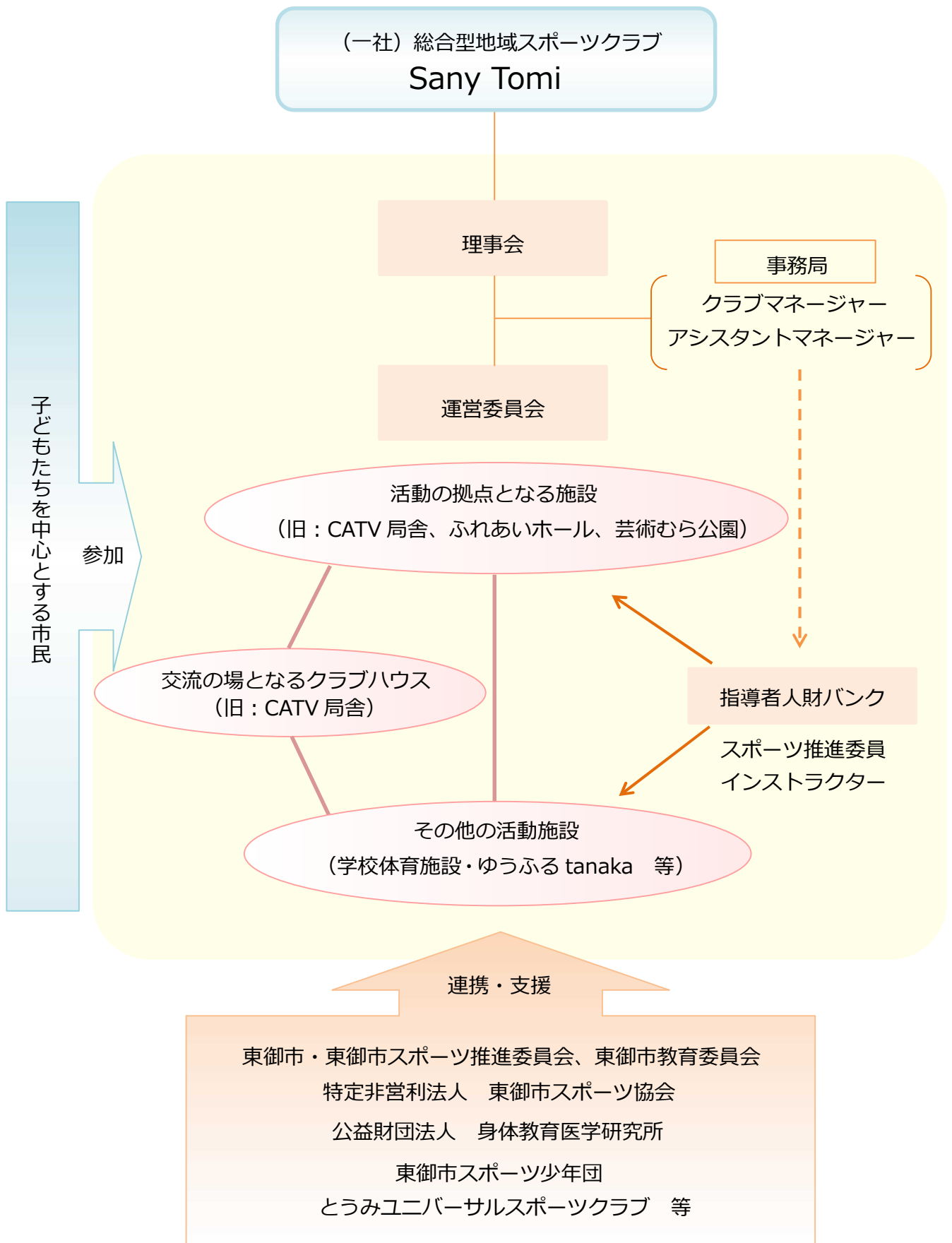
既に同様の趣旨を掲げ、子どもたちの自然体験や外遊び活動に取り組んでいる（公財）身体教育医学研究所と緊密に連携・協力しながら活動します。



また、設立するクラブが地域に定着・浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要です。

クラブは、これまでスポーツ活動を支えてきた様々な団体の“足りない”部分を担うことによって、すべての子どもたちがスポーツに親しめる環境をつくっていかうとするものです。

スポーツ協会、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体、市、スポーツ推進委員会や各種機関・団体と連携することによって、互いの「強み」が互いの「弱み」を補い合う相互扶助の関係性を築いていくことによって地域から信頼されるクラブをつくっていきます。



5 Sany Tomiの基本目標

(1) 子どもたちの健全な育成と個性を伸ばすスポーツの実現

特定の種目にこだわることなく、子どもたちのレベルや興味、からだを動かすことに“楽しさ”や“喜び”を感じることができるプログラムを提供し、子どもたちの「こころ」と「からだ」の健全な発達を支えます。また、多様なスポーツに触れてその楽しさや喜びを味わうことを通じて、ひとり一人の能力・適性を伸ばす活動に取り組めます。

【3年後（2024年）の数値目標】

小学生の過去1年間の運動・スポーツの非実施者の割合： 11.13% ⇒ ●%

中学生の過去1年間の運動・スポーツの非実施者の割合： 7.51% ⇒ ●%

(2) スポーツを通じた交流の促進による絆の強い地域社会の実現

子どもたちがスポーツをする、またコミュニケーション能力を養うきっかけとなるよう、親子または地域みんなで継続的にできる運動メニューを提供し、親子、地域、年代を超えた交流の促進を支えます。また、スポーツ交流を通じて市民一人ひとりがつながり、地域の一体感や地域への愛着が育まれるよう、地域活力の創生を目指します。

【3年後（2024年）の数値目標】

過去1年間、子どもたちと一緒にスポーツ交流した市民の割合：現状値なし ⇒ ●%

(3) 日常生活の中で自然にスポーツに親しむ地域社会の実現

子どもたちにとっても大人にとっても、すべての市民がスポーツに親しむきっかけづくりとなるよう、スポーツが日常生活にとけ込む姿として「アスレチック（運動）×レジャー（余暇）」のライフスタイルを提案していくとともに、スポーツ活動ができる環境を整え、スポーツの習慣化の後押しに取り組めます。

【3年後（2024年）の数値目標】

運動・スポーツ等、身体を動かすことが好きな市民の割合：73.8% ⇒ ●%

6 目標実現のための具体的な方策

(1) 子どもたちの健全な育成と個性を伸ばすスポーツの実現

◆ 具体的な方策

○ダンススクール

2012年に中学校の必修科目となり、テレビやインターネット動画でも日常的にダンスシーンが目に触れられるようになった事で習い事としても人気上昇しているダンス。

ダンスの効果として、自己表現力・コミュニケーション能力の向上（こころ）や柔軟性・持久力・筋力の向上（からだ）などが養われると言われており、競い合うのではなく、個々の志向や興味を大切にしたスポーツ活動の場として取り組みます。

開催時期・頻度：通年・週1回（月4回）

開催場所：文化会館・アクティブふれあいホール

指導者：笹平 姫成

○マット+（プラス）教室

スポーツや運動の基本的動作が詰まったマット運動・あそびとスラックラインやボール遊びなど、その他の運動を合わせたマット教室。

技の完成を目指すのではなく、過程を楽しみ、スモールステップアップを実感し、自己肯定感や達成感を感じられる場として取り組みます。また、1種目にこだわらずに多種目を遊びながら実施する事で多様な動きが身に付き、専門種目へ入る前の身体づくりができます。

開催時期・頻度：通年・月2回

開催場所：アクティブふれあいホール・旧CATV局舎

指導者：鈴木 清香

協力：スポーツ推進委員

○放課後子ども教室

放課後の空き時間を利用し、子どもの多様な経験をすることができる場づくりをします。運動遊びや文化的活動を通して三間（時間、空間、仲間）を確保します。

異年齢交流の他、地域のボランティアを募り地域住民との交流も同時に図ります。

開催時期・頻度：通年・年4回

開催場所：各小学校校庭・体育館

指導者：鈴木 清香

協力：教育委員会・児童館・児童クラブ・民生児童員・スポーツ推進委員・ボランティア部・ボランティア（地域住民）

○ゆる部活

楽しく体を動かすことを目的とし、放課後の時間を利用してゆるスポーツやニュースポーツ、部活動にないスポーツを中心に実施します。軽い気持ちで運動・スポーツに取り組み、競技力向上を求めずに仲間と遊ぶ居場所づくりの役割も果たします。

開催時期・頻度：通年・2カ月1回

開催場所：北御牧中学校校庭・体育館

指導者：鈴木 清香

協力：教育委員会・部活動指導運営スタッフ（人材バンク）・スポーツ推進委員・ボランティア（地域住民）

（２）スポーツを通じた交流の促進による絆の強い地域社会の実現

◆ 具体的な方策

○ユニバーサルスポーツの促進

年齢や障がいのあるなしに関係なく、一緒に出来るユニバーサルスポーツの促進を進めていきます。

ボッチャやシッティングバレーといったパラスポーツ、ドッチビーやスラックラインなどのニュースポーツなど、年齢や障がい、志向を問わずに一緒に活動できる場づくりに取り組みます。

開催時期・頻度：四半期1回

開催場所：中央公園体育館

協力：みんなの健康×スポーツ実行委員会

○里山探検・カヌー体験などの自然体験活動の推進

（公財）身体教育医学研究所と連携し、森や池、川といった地域資源を活用し運動やあそびの提供をしていきます。

自然を媒体にし、親子での参加やボランティアスタッフとしての係わりをすることで交流が増えるだけでなく、自然への愛着が、結果として地域への愛着となり、地域活力となる取り組みをします。

開催時期・頻度：里山探検（4月～2月）・月1～2回／カヌー体験（5月～10月）・月1回

開催場所：四季の森、芸術むら公園、明神池

協力：楽育ひろばtomi、身体教育医学研究所

（３）日常生活の中で自然にスポーツに親しむ「Sports in Life」の実現

◆ 具体的な方策

○スラックラインパーク・プレイパーク

スラックラインパークやプレイパークなどを現在のフィールドを活用し、整備していきます。誰もが気軽にスポーツ活動に取り組めるフィールドづくりを東御市、管理団体と協働し、進めていきます。

開催時期・頻度：秋ごろ・年1回

開催場所：未定

協力：楽育ひろばtomi

7 年間事業スケジュール

（別紙）

8 マスタープランの管理

Sany Tomiマスタープランは、子どもたちの健全な育ちを核に地域にスポーツ文化を根付かせるための方針を定めた計画です。

Sany Tomiの活動はこの方針に基づいて進めていきますが、クラブが地域に浸透していくにつれ様々なニーズが出現していくことが予想されます。

このため、目標実現のための方策に沿った活動を着実に実行し、その内容を及び効果を定期的に検証することによって常に改善を図っていくとともに（PDCA）、地域の実情や特性などを考慮しつつ、設立後3年を目途に見直しを図るものとします。